

## 2024年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：金融経済学特論	
担当教員名：國方 明	
<p>授業科目概要：</p> <p>本科目では、ミクロ経済学の理論とマクロ経済学の理論を金融に応用する。本学大学院博士前期課程には、金融関連科目として、本科目以外に金融機関論特論とファイナンス特論がある。本科目は、これら他科目と、次の2点で異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他科目では、ミクロ経済学を金融に応用した理論だけを教える予定である。これに対して、本科目では、マクロ経済学を金融に応用した理論を主に教え、ミクロ経済学を金融に応用した理論については最小限にとどめる予定である。</li> <li>● 他科目では、経済学と統計学の両方に基づく議論を紹介する予定である。これに対して、本科目では、統計学に基づく議論を紹介しない予定である。</li> </ul>	
<p>履修上の留意事項：</p> <p>あらかじめ、マクロ経済学特論、ミクロ経済学特論Iおよびミクロ経済学特論IIの単位を取得していることを強く望む。もし、これら科目の単位を取得していなければ、各科目のシラバスで指定されている教科書などを使って自習すること。</p>	
<p>教科書</p> <p>書名：『金融論 市場と経済政策の有効性【新版】』          著者／編者：福田慎一 著          出版社：有斐閣          出版年：2020年          新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。</p> <p>全15章である。そのうち、第1章～第9章が、ミクロ経済学を金融に応用した章と言えるだろう。これに対して、第10章～第15章が、マクロ経済学を金融に応用した章と言えるだろう。もっとも、ミクロ経済学とマクロ経済学の両方にかかわる章もあるので、上の2区分は目安と考えてほしい。</p>	
参考書（参考文献）	
<p>参考書1：</p> <p>書名：『金融論』          著者／編者：大野早苗 他 著          出版社：有斐閣          出版年：2007年          新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。</p> <p>金融についての包括的なテキストである。金融にかかわる様々な論点を概観するのに役立つだろう。特に金融政策を取り上げる第5部が優れている。ただし、出版年が古く、章ごとで難易度が大きく異なる。</p>	<p>参考書2：</p> <p>書名：『金融政策【第2版】』          著者／編者：小林照義 著          出版社：中央経済社          出版年：2020年          新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。</p> <p>金融政策について体系だっ取り上げている、数少ない教科書である。</p>
<p>参考書4：</p> <p>書名：『金融政策のフロンティア：国際的潮流と非伝統的政策』          著者／編者：翁 邦雄 著          出版社：日本評論社          出版年：2013年          新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。</p>	<p>参考書4：</p> <p>書名：『金融システムの経済学』          著者／編者：植田健一 著          出版社：日本評論社          出版年：2022年          新品購入可能、本学図書館に所蔵済み。</p>

<p>評価方法及び判定基準：  次の(ア)および(イ)を総合して、100点満点で各履修者を評価する。試験は実施しない。  (ア) 授業における活動や貢献  (イ) 課題1回</p> <p>上記(ア)および(イ)の内容及び配点を、第1回授業内で伝える。</p> <p><b>A評価：80点以上、B評価：70点～79点、C評価：60点～69点、F評価：59点以下</b></p>
<p>授業目標及び進め方：  目標：金融を分析するために、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論をどのように応用すれば良いのかを理解する。  進め方：次の2つのどちらかを予定している：(1)教科書を輪読する、(2)國方が講義する。履修者が多ければ輪読を、履修者が少なければ講義を、それぞれ採用したい。  学期中に一度、課題を実施する。課題内容は次の予定である。國方が、金融にかかわる学術論文またはレポートを数本配布する。各履修者は、その学術論文等の中から1本を選び、その1本を要約する。詳細を授業内で伝える。</p>

◆ 授業進行計画 (\* 受講生の関心分野や新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、計画を変更する可能性がある。)

第1回 第2回	<p>テーマ：金融の役割  内 容：金融という経済活動の役割と、その経済活動が民間金融機関などの組織を通じて行われる理由を学ぶ。</p> <p>教科書第1章を使用する予定である。</p>
第3回 ～ 第7回	<p>テーマ：ミクロ経済学の金融への応用  内 容：第8回以降の授業を理解するのに必要な範囲内で、ミクロ経済学を金融に応用した理論を学ぶ。</p> <p>教科書第2章、第4章、第5章、第6章、第7章および第9章のそれぞれについて、全部または一部を使用する予定である。特に、第2章で紹介するライフサイクル仮説は、現代の主流派マクロ経済学における標準的なツールの1つである。</p>
第8回 ～ 第15回	<p>テーマ：マクロ経済学の金融への応用  内 容：金融政策を中心に、マクロ経済学を金融に応用した理論を学ぶ。</p> <p>教科書第10章～第15章を使用する予定である。参考書についても適宜参照したいと思っている。</p>